

## 漁港水域の有効利用の促進を考える

-栽培養殖・観光資源との連携を中心に-

### 趣旨

漁港とは漁業根拠地となる水域、陸域、施設の総合体を指し、そのうち漁港施設は基本施設と機能施設に区分される。機能施設は、荷さばき所、加工場、宿泊所、給油所などインフラにかかる施設が該当する。現在、水産業に携わる就業者人口及び経営者数は減少しており、また高齢者の割合も全国の生産人口より高水準となっているため、漁港機能利用の低下の抑制及び既存する漁港機能を効率的に維持・管理・更新することが求められている。そのため、近年では漁港機能を集約化し再活用による効率的な施設利用が推進されつつある。例えば、これまで注目されてこなかった漁港機能の1つである増養殖施設としての機能強化は、栽培の中間育成地や養殖拠点として利用することで水産環境整備の1つとして位置づけられるようになってきている。また、レジャーや観光拠点として漁港施設を利活用が推進されており、新たな漁港漁村整備の一つとして考慮されていくと考えられる。しかしながら、現在まで、増養殖施設を柱とした漁港機能を検討した事例は非常に少なく、栽培養殖として漁港施設利用の実用化まで至った事例は少ない。今後、漁港機能の集約化・再活用が進められる中で、漁港機能を発揮させるためには、これまで漁港施設利用と接点の少なかった栽培養殖や観光などの異なる分野の現状や考え方について双方に把握・理解し、連携を強化していくことが必要である。

本部会では、初めに行政の方々から漁港施設（特に水域）、栽培養殖に関する現状について報告していただく。次に、漁港施設や漁港水域の有効利用や今後の展望について、それぞれの視点から専門家に話題提供して戴き、双方の研究について理解を深める。最後に、総合討論「新たな漁港水域の利活用に向けた取組み」と題して、それぞれの分野との研究連携について議論する。

日時：2015年12月14日(月) 13時30分～16時55分

場所：エッサム本社ビル グリーンホール（別紙会場地図参照）

101-0041 東京都千代田区神田須田町1-26-3、電話 03-3254-8787

主催：国立研究開発法人水産総合研究センター 水産工学研究所

### プログラム

13:30 - 13:35	開会挨拶	水産工学研究所長	前野幸男
13:35 - 13:40	開催趣旨	水産工学研究所	中山哲巖
(1)事業の紹介(発表15分、質疑5分)			
13:40 - 14:00	インフラ集約・縮減に向けた漁港施設整備と海面利用促進	水産庁	高原裕一
14:00 - 14:20	栽培漁業基本方針の概要	水産庁	内海邦夫
(2)漁港利用の現状(発表15分、質疑5分)			
14:20 - 14:40	漁港水域の有効利用の現状	漁港漁場漁村総合研究所	三浦 浩
(3)漁港機能に関する現状(発表15分、質疑5分)			
14:40 - 15:00	増養殖施設としての漁港機能研究の現状と展望	水産工学研究所	明田定満
15:00 - 15:10	休憩		
(4)漁港の有効利用に向けて(発表15分、質疑5分)			
15:10 - 15:30	養殖と漁港施設利用の現状と展望	西海区水産研究所	照屋和久
15:30 - 15:50	栽培と漁港施設利用の現状と展望	瀬戸内海区水産研究所	小畑泰弘
15:50 - 16:10	レジャー、観光と漁港施設利用の現状と展望	東海大学	関いずみ
(5)総合討論			
16:10 - 16:50	「新たな漁港水域の利活用に向けた取組み」		
16:50 - 16:55	閉会	水産工学研究所	寺脇利信

FAX 送信先 : 0479-44-1875  
水産工学研究所 宛

平成 年 月 日

平成 2 7 年度水産工学関係研究開発推進会議  
水産基盤部会参加申込書

機 関 名 : 連絡者名 :

T e l : F a x :

E-mail :

職 名	氏 名	備 考

※用紙が不足した場合は、コピーしてください。

上記欄に必要事項をご記入の上、平成 2 7 年 1 2 月 4 日 (金)までに FAX でお申し込み下さい。

担当 水産工学研究所 特任部長 明田定満  
〒 314-0408  
茨城県神栖市波崎 7620-7  
Tel 0479-44-5937  
Fax 0479-44-1875

